

外国語科（英語）調査資料 作成の観点

書名	<div style="font-size: 2em; letter-spacing: 1em;">○○○○ ○○○○○</div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
項目		
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○外国語の音声や文字，語彙，表現，文構造，言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き，これらの知識を理解することができるように、どのような工夫がされているか。</p> <p>○読むこと，書くことに慣れ親しみ，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付くように、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○外国語の背景にある文化に対する理解を深め，他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <p>○単元などの時間のまとまりごとに、五つの領域別の目標と指導内容との関係が明確になるようどのような工夫をしているか。</p> <p>○文及び文構造について、言語活動と効果的に関連付けて取り上げており、用語や用法の指導に偏ることのないよう、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○必要となる語彙を言語活動と効果的に関連付けて取り上げられており、実際のコミュニケーションにおいて活用されるよう、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○図書の内容と一体のものとして、視聴覚教材などが相互に適切に関連が図られるよう、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるため、資料には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵、写真等の資料にはどのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○字体、記号・符号、用語等の使い方には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○文字の大きさ・行間等には、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: center;">NEW HORIZON Elementary English Course</p>	<p style="text-align: center;">2 東 書</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○単元で使われる基本的な語彙等を、歌やチャンツを使った活動と「Sounds and Letters」でアルファベットの文字と音を知る活動が毎時間ある。文章の一部を色分けし、語句を入れ替えることで文構造と自分の思いを伝えられることを理解できるように工夫されている。 ○既習した会話文を使ってやり取りをする「Small Talk」の活動が毎時間設定されている。基本的な語彙や表現に慣れ親しむ「Your Turn」で学習した内容を使って、相手とやり取りしながら自分の思いを伝える「Enjoy Communication」が単元ごとに設定されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各単元は、三つの段階で構成されている。導入「Starting Out」では、音と映像で重要表現を知り、展開「Your Turn」では、ペア・グループ活動を通して重要表現に慣れるように工夫されている。まとめ「Enjoy Communication」では、単元で学習した表現力を使い、思いを形にして楽しみながら思考力・判断力・表現力を高める構成になっている。年間3回、学習内容を振り返るとともに、伝える力を確かめる「Check your steps」がある。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○各単元の最後に単元の内容に関連した異文化理解のページが用意されている。各単元の「Enjoy Communication」でコミュニケーションにおける工夫を取り上げ、児童が相手意識をもって活動に取り組めるように工夫されている。相手に配慮した話し方と聞き方が取り上げられている。各単元に「Our Goal」として目標を明記し、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。</p> <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫> ○各単元が「聞く→話す(やり取り・発表)→読む→書く」の流れになっており、どの技能(領域)を重点的に扱うかが、各活動にマークで示されている。 ○短く易しい対話から段階的に言語活動へと結びつけられている。また、言語の使用場面や働きを重視し、「Small Talk」、「Picture Dictionary」、「Sound and Letters」が各単元に設定されている。 ○英語を使用する日常の場面が設定されており、教室でも児童が英語を使う機会がもてるように工夫されている。5年生では日本、6年生では世界を取り上げ、児童の関心・意欲を引き出すとともに、視野を広げ、よりコミュニケーションが深められるように工夫されている。 ○指導者用デジタル教材では、教科書のストーリーを実写化した映像や活動の手順を示した映像、外国人へのインタビュー、海外映像、発音の口形動画などを使用できるように工夫されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○巻頭には、5年の「日本に暮らすわたしたち」、6年の「世界に生きるわたしたち」があり、教科書で学ぶ内容が写真で示されている。また5年生には、英語を使って将来してみたいことを書き込む「英語ができるようになったら、未来が広がるよ!」がある。 ○巻末には、読み物教材である「STORY TIME」やローマ字表が掲載されている。また、アルファベットの読む活動、書く活動を扱う「Sounds and Letters」がある。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○英語・日本語ともに、独自のユニバーサルデザインフォントが使用されている。4線の第2線は点線になっており、第2線と第3線の間は、広がっている。カラーユニバーサルデザインの紙面構成になっている。 ○全体的に文字は小さめで、行間も狭くなっている。英文は、他の文より大きめに表記されている。英文の中で、選択して単語を入れる部分にはイラストも添えられている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○各単元がインプット、練習、アウトプットの3段階で構成されている。英語を使う日常場面が設定されており、単元のはじめに目標が記され、最後には異文化理解のページがある。年間3回、学びを振り返り、伝える力を確かめるコーナーがある。また、別冊の「Picture Dictionary」が5年生に供給され(初年度は5・6年生に供給)、3～6年生で扱う600～700の語や表現が1冊にまとめられている。</p>	

書名 項目	<h1>Junior Sunshine</h1>	9 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">開隆堂</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動で使う基本的な語彙や表現を音声で知る「Let's Listen」と、声に出して言う「Let's chant」、「Let's Sing」の活動がある。文章の一部分の語句を入れ替えることで、文構造を理解し、自己表現ができるように工夫されている。 ○基本的な語彙や表現を繰り返し使って慣れ親しむ「Let's Play」の活動がある。学んだ語彙や表現をやり取りの中で使う「Let's Try」の活動が各単元の中に設定されている。また、各単元で学習した語彙や表現を使って活動する「Project」が各学年に2回設定されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元の初めには、「Let's Listen」や「Let's Play」などの活動が設定されている。これらの活動においてペア・グループ活動を通じて、新しい語彙や表現を繰り返し学習することで定着を図り、その後の「Let's Try」において、児童の身近な題材について、既習表現を用いて伝え合う活動を行う構成になっている。対話と協働を軸にする活動を通し、習得した知識・技能を思考力・判断力・表現力へとつなげる構成になっている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○異文化に触れることができる活動として、国の有名なもの、衣装、季節などに関係する活動がある。また、発表するときや聞くときのポイントが示されており、児童が相手意識をもって活動することができるように工夫されている。巻頭の「CAN-DO」マップでは、学習の見通しが立てられるようになっており、児童の学習意欲を喚起し、主体的に取り組めるよう工夫されている。 <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元が「聞く→話す→読む→書く」の流れになっており、各活動をマークで示すとともに、1年間の学習で何ができるようになったかを4技能（5領域）の観点から振り返ることができるリストが巻末に設定されている。 ○「読み・書き」は教科書後半に独立してまとめられている。外国語活動で触れたアルファベットの形を認識することから始まり、文字と音の関係や単語・文を書くことの基礎を段階的に学習するように工夫されている。 ○チャンツなどの言語活動を通じて、語彙等の知識を身に付けた後、表現活動で実際のコミュニケーション活動につながる構成になっている。日常生活に関する題材を扱い、ペアやグループ活動を行うことで児童同士がコミュニケーションを行う活動が設定されている。 ○教師用のデジタル教材では、対話の内容を示したアニメーションや、発音や意味を確認できる単語カード、ゲーム的な活動も動画や音声で活用できるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭には、「CAN-DO」マップがあり、何ができるようになったかを確認できるようになっている。また、5年生には、3・4年生の復習ページ「Spring Festival春祭り」があり、学んだ表現を振り返ることができるように工夫されている。 ○巻末に、この本で学んだ語彙等の「発音クリニック」や「この教科書で学んだことリスト」がある。6年生には「中学校へつなげよう」があり、中学校の学習イメージがもてるように工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○英語は、独自に開発されたフォント（手書きの形に近い欧文書体）が使用されている。日本語はゴシック体が使用されている。4線は、第2線と第3線の間は広く、第3線は青線、それ以外は点線になっている。カラーユニバーサルデザイン紙の紙面構成になっている。 ○英文は大きめに表記され、単語のみの場合は小さめに表記されている。日本語と英語の文字の大きさに差はない。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元の初めに目標を示し、活動の見通しを持たせる構成になっている。インプットを中心に様々な活動を繰り返し行い、活用しながらまとめる単元構成になっている。巻末には「CAN-DO」マップや4技能の観点で、学習の振り返りができるリストがある。また、「文字に慣れよう」が特設され、読むこと、書くことの活動ができるよう1時間分の活動を3項目に分け、15分単位で活動できるように工夫されている。 	

書名 項目	<h1>JUNIOR TOTAL ENGLISH</h1>	1 1 学 図
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○基本的な表現を知る「Let's Listen」と、声に出す「Let's Chant」の活動がある。「聞く」「話す」では、自分の思いに当てはまる表現を繰り返し言う活動がある。欄外の「Sounds and Letters」でアルファベットの文字と音を理解できるように工夫されている。 ○基本的な表現を「聞く」、自分に当てはまる表現を「言う」の練習を繰り返し行い、発表ややり取りをする活動が設定されている。発表用シートを作ってShow & Tell形式で自己表現をする「Project Time」が、各学年に2回設定されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各単元内の活動が、聞く、聞いて繰り返し言う、話す、読む・書くというステップを踏む構成になっている。「Let's Listen」や「Let's Chant」において、目標表現を耳で慣れ親しんだ後、アウトプット活動を行うようになっていく。各単元末には「Use & Check」があり、これまで学習してきた表現を実際に使い、自分の考えを伝え合う活動が設定されている。その活動では、相手や場面を意識して伝え合いができる設定になっている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○各単元に設定されているコラムでは、英語やその背景にある文化を説明しており、異文化に触れられるように工夫されている。「クラスルームイングリッシュ」と「Pre-Lesson」の「あいさつをしましょう」のコーナーでは、励ましの表現や相づち、挨拶が紹介されており、お互いの意見や思いを肯定的に受け止められるようになっていく。単元ごとに目標表現が明示され、児童が見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 </p> <p> <聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫> ○「聞く・聞いて繰り返し言う」→「話す」→「読む・書く」の流れで構成されている。「レッスンのとびら」で目標を示し、各活動には4技能（5領域）のマークで示すようになっていく。 ○文を提示する際、文頭の表現を揃えることで視覚的に同じ語彙や語順への気付きが促され、音声に触れてから読む・書く活動を行い、文構造の理解につながるよう工夫されている。 ○単語を単に繰り返し練習にならないように、「自分に当てはまるものだけ」、「その人になりきって」繰り返し活動を通じて、実際のコミュニケーション活動につなげられている。やり取りや発表の活動の目的を示し、児童が話したり、聞いたりしたいと思える場を設定し、実際のコミュニケーションを意識させるよう工夫されている。 ○指導者用デジタル教材では、音声の再生、アニメーションや動画再生、ロールプレイ機能などがあり、「Scene」「Let's Listen」「Let's Chant」、レッスンの歌のイラストや道案内の地図も活用できるように工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○巻頭には、5年に「英語が使われているいろいろなシーン」、6年に「英語を使用する仕事」があり、写真で場面や仕事を示されている。クラスルームイングリッシュや挨拶表現やアルファベットについて振り返る「Pre-lesson」がある。 ○巻末には、英語の歌やイラスト付き「Words List」、練習用の4線、ローマ字表がある。5年生には「世界の友達」、6年には「英語で発表ができるようになったよ!」で日本地図を掲載している。 </p>	
表記・表現	<p> ○英文は、移行期の文科省新教材に似たフォント(UDデジタル教科書体)が使用されている。日本語はゴシック体を使用し、5:6:5の縦幅の4線を採用しており、1:1:1の中学で使用される4線に近いものを使用している。また、線は全て実線だが、第3線のみ濃くなっている。 ○英語が日本語よりも大きめに表記されている。 </p>	
総 括	<p> ○各単元の初めに英語の自然なリズムやイントネーションを十分に聞き、目標表現を繰り返しインプットするために「聞く、聞いてくり返す、話す、読む・書く」のステップで活動を行い、最後に自己表現活動をする構成になっている。活動は15分の目安で展開できるように工夫されている。単元末には絵本コーナーとして「Shaggy's Story」があり、単元で学習した表現の確認や文字への気付きができるように工夫されている。 </p>	

書名 項目	<h1>CROWN Jr.</h1>	15 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">三省堂</div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○大単元の「Step」では、その時間の学習で使う基本的表現を知る「Listen & Talk」、語句に親しむ「Word Chant」文章に親しむ「Enjoy Listening」の活動が設定されている。各学年において、全単元でアルファベットの文字と音を理解できるように工夫されている。 ○「Listen & Talk」で学習した基本的な語彙や表現を使ってやり取りを行う活動が設定されている。「Enjoy Listening」を参考にして、Show & Tell形式で既習の内容を使って自分の思いを伝える「Talk to Friends」が全単元に設定されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「Hop」、「Step」、「Jump」の三つの大単元に分かれており、「Hop」で学習の見通しをもち、「Step」で基礎的・基本的な知識・技能を習得し、「Jump」で自己表現活動を行う構成になっている。「Step」は、複数の「Lesson」で構成され、ペア・グループ活動から全体活動へとスモールステップで進む構成になっている。そして「Jump」では、学習した語彙や表現を提示された場面の中で思考力を働かせながら活用する活動が設定されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○言語や文化に関する題材や資料が配置され、異文化に対して理解が深められるように工夫されている。児童にとって身近な話題や場面でのコミュニケーション活動が設定され、「Tips!」では他者への配慮を促す表現が紹介されている。主体的な学びが行われるように、児童それぞれの考えや気持ちを伝える活動が設定されている。また、児童が学習の見通しが立てられるように「HOP」、「STEP」、「JUMP」と学びのプロセスがマークで可視化されている。 </p> <p> <聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫> ○各単元が「聞く → 話す(やり取り) → 読む → 書く → 話す(発表)」の流れで構成されており、各活動でどのような力を育成するかが4技能（5領域）のマークで示されている。 ○文及び文構造、語彙は単純なものから複雑なものへ段階的に配置するとともに、大単元の言語活動の目標に合わせて選択、配置をしている。児童の気付きにつながりやすい箇所に、そのヒントを活動や脚注に入れている。 ○語彙については、全ての語彙が表現のための語彙として扱われ、大部分はイラストとともに綴りが提示されており、表現活動をする際の参考とするよう工夫されている。コミュニケーション活動で利用できる語彙や表現のリストが巻末に配置されている。 ○指導者用デジタル教材では、授業展開例と連携した「授業プラン」モード（パワーポイントのように画面を送っていく方法）で授業が進められるようになっている。 </p>	
資 料	<p> ○巻頭には、5年に「世界のあいさつ」、6年に「世界のまちかど」があり、写真と文字で示している。また、「英語で言えるかな」では、外国語活動で学んだ語彙や表現に触れ、「教室で使う英語」や「会話を続けるくふう」で簡単な会話表現を振り返ることができるように工夫されている。 ○巻末には、「CAN-DO」リストやアルファベットの復習コーナー、単語リストがある。また、他国の文化に触れられるように読み物教材が配置されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○英語表記において、独自の手書き文字フォントが使用されている。読む活動の文字は、中学校で使用されているフォントが使用されている。日本語は、ゴシック体を使用されている。4線は、第2線と第3線の間は広めで、全て実線だが、第3線のみ青線になっている。カラーユニバーサルデザインの紙面構成になっている。 ○全体的に日本語、英語とも文字は大きめで、行間も広い。 </p>	
総 括	<p> ○「HOP」、「STEP」、「JUMP」の三つの大単元で構成されている。各単元初めの「Panorama」では、一枚絵を用いて語彙や表現をインプットし、「Listen & Talk」で慣れ親しんだ表現を焦点化して学び、段階的にアウトプットにつなげられている。また、日本や外国の物語に関する題材がある。巻末の「CAN-DO」リストや学んだ主な表現をまとめたページがあり、学習の振り返りや児童の変容が実感できるように工夫されている。 </p>	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">ONE WORLD Smiles</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">教 出</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動の中で使う語彙や表現を声に出す「Let's Sing」、「Let's Say It Together」と「聞く」ための「Let's Listen」の活動が設定されている。文章の一部の空欄に語句を入れることで、文構造を理解し、自分の思いを伝えることができるように工夫されている。 ○各単元に基本的なやり取りをペアやグループで取り組む「Activity」と、学習した語彙等を使い、単元の目標に関連した発表ややり取りをする「Final Activity」が設定されている。6年生では例文を参考に自分のことを伝える文章を書く活動が全単元に設定されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元の流れは、映像を見て概要を捉え、聞いて慣れ親しむ活動から、自分の考えや思いを伝える活動へつながるようになっており、インプットからアウトプットへと段階的に学習が進むように構成されている。単元内の「Let's Think」では、気付きや思考を促す問いが設定されている。また、「Final Activity」では、これまで学習した語句や表現を使い、自分のことについて表現する活動が設定されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元の最後に単元の内容に関連した異文化理解のページが用意されている。各単元の外国の有名なものや生活を扱う題材が設定され、異文化に触れられる活動がある。各単元にペアやグループで行われる活動が設定されている。その中で励ましや相づちの表現が紹介されており、他者へ配慮したコミュニケーション活動が行われるように工夫されている。「Let's Watch」で映像により内容を捉え、児童が見通しをもって活動できるよう工夫されている。 <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元において、「聞くこと → 話す(やり取り) → 読むこと → 書くこと → 話す(発表)」の流れで構成されており、どの技能を重点的に扱うかが分かるようにマークで示されている。 ○日本語と英語の語順の違い等の気付きを促す活動が設定されている。新たに扱う文構造については、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通じて、気付きにつながるよう工夫されている。 ○各単元では、目標となる表現活動につなげるために、段階的に活動が設定されている。各単元末の「Final Activity」では、学んだ内容を活用して、目的をもって取り組むコミュニケーション活動ができるよう工夫されている。 ○指導者用デジタル教材では、動画、フラッシュカード再生機能などが学習場面に応じて使用できるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭には、5年生に世界の挨拶、6年生に世界の子供たちの夢を写真で示している。また、「Classroom English」や「Let's start together」では、これまで学んだ英語の語彙や表現に触れられるように工夫されている。 ○巻末には、英語の歌や単語リストがある。また折り込み資料として、文字に関する資料として、アルファベット表、音に触れられる「Jingle」、ローマ字表がある。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○英文は、書くときのアルファベットに近い形状のフォントが使用されている。日本語も、ユニバーサルデザインフォントが使用されている。4線は、5：6：5の縦幅となっており、全て実線だが、第3線のみ青線となっている。カラーユニバーサルデザインの紙面構成になっている。 ○日本語と英語の文字の大きさに差はない。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元が「聞くこと→やり取り→読むこと→書くこと→話すこと」で構成されている。冒頭に1年間の目標を示し、児童の目標を設定できるように工夫されている。学校生活に関するテーマや他教科の内容を取り入れた活動が設定されている。また、国際理解コーナーが設けられ、異文化に触れられる活動がある。6年生の最後の単元では、2年間で学んできたことの総復習として自分のことを書き、小冊子「My Book」にまとめる活動が設定されている。 	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">Here We Go!</h1>	38 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">光 村</div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○「Step」では音声と映像から基本的表現を聞いて知る活動と語彙等を声に出すチャンツの活動がある。相づちや誉め言葉を紹介する「Response」のコーナーが全単元で設定され、欄外の「Sounds and Letters」でアルファベットの文字と音を理解できるよう工夫されている。 ○チャンツの後に行う「Let's Play」で語彙や表現に慣れ親しむ活動を行った後、学習した表現を使い、やり取りをしながら、お互いの考えや気持ちを伝え合う活動が設定されている。また、例文を参考に自分のことを伝える文章を書く「You can do it!」がある。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各単元は、「Hop!」、「Step1」、「Step2」、「Jump!」の順で構成されている。「Hop!」で目標表現を知り、「Step1・2」では、聞く活動から始まり、話す活動を経て、読む・書く活動へとスモールステップで進んでいき、最後の「Jump!」につながる。「Jump!」では、慣れ親しんだ語彙や表現を読む活動や、映像を視聴し、考え方や表現の方法を広げる活動を行い、最後には自分の考えや思いを伝え合う活動が設定されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○各単元の「Jump!」に「World Tour」のコーナーが設定され、世界各国の文化に触れられるように工夫されている。各単元の話す活動における「Response」では、他者に配慮する表現が紹介され、伝え合う時の態度や相づち表現等の相手意識をもつための活動が設定されている。また、単元ごとに目標が明示されており、見通しをもって活動することができるよう工夫されている。 </p> <p> <聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫> ○各単元が「聞く→話す(やり取り)→読む→書く→話す(発表)」の流れで構成されており、各活動が4技能（5領域）のマークで示されている。 ○読むこと、書くことは、聞くこと、話すことに慣れ親しんでから、文字→単語→語句→文と、段階を踏んで活動できるよう工夫されている。生物の食物連鎖の題材を活用して、文構造を捉えられるよう工夫されている。 ○表現のための語彙と理解のための語彙の考え方が意識されており、重要な語彙については聞く活動も含めて何度も触れられている。小学校3年生から慣れ親しんだ表現に何度も触れられる構成になっており、各単元末の「You can do it!!」では、これまで学んだ表現を使ったコミュニケーション活動が設定されている。 ○指導者用デジタル教材では、ピックアップカード、歌、「Small Talk」がある。各単元にアニメーションが配置されており、QRコードで英語の音声を確認できるように工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○巻頭には、5年生に「英語で夢を広げよう」、6年生に「こんにちは。友達になろうよ。」があり、人物の写真で職業等が示されている。「Can-Do」リストの一覧があり、学習内容が示されている。「Let's Start」には、挨拶や教室英語、アルファベットを振り返ることができるように工夫されている。 </p> <p> ○巻末には、絵辞典、学んだ表現の一覧、「Sound and Letters」、すごろく、ローマ字表がある。また、学年末に児童の成長を振り返ることができる「学びのパスポート」がある。 </p>	
表記・表現	<p> ○英語は独自に開発された書体を使用している。日本語はユニバーサルデザイン書体（丸ゴシック体）を使用している。4線は、第2線と第3線の間が広がっている。全て実線だが、第3線のみ青色となっている。カラーユニバーサルデザインの紙面構成になっている。 </p> <p> ○英文は一文ごとに改行し、文頭を揃えるようにしてある。日本語と英語の文字の大きさに差はない。 </p>	
総 括	<p> ○単元ごとに「Hop!」、「Step1」、「Step2」、「Jump!」の4部構成になっている。各単元の初めに単元の目標として「Goal」が設定されている。単元末には、書く活動、歌やゲーム、他教科とのつながりがある活動が設定されている。「世界の友達」コーナーがあり、世界各国の文化に触れられるようになっている。巻末には「ペンマンシップ・シート」があり、水性ペンを用いて何度も文字を書く練習ができるように工夫されている。 </p>	

書名 項目	<h1>Blue Sky elementary</h1>	6 1 啓林館
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○基本的な表現を知る「Listen and Play」、語彙、表現、文章を繰り返し聞いたり声に出して言ったりする「Jingle」、「Chant」の活動がある。文章の一部の語句を入れ替えることで、文構造を理解するとともに、自分の思いを伝えられるように工夫されている。 ○繰り返し聞いたり言ったりして基本的な語彙や表現の使い方を知る「Listen and Do」や「Listen and Say」の活動がある。学んだ基本的な表現を使ってやり取りや発表を行い、自分の思いを伝える「Activity」が、各学年の全単元に設定されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各単元は、「Part1」、「Part2」、「Part3」の三つの段階に分けられている。「Part1」、「Part2」で新しい語彙や表現を知り、聞く、話すことを中心とした活動を通じて定着を図り、「Part3」で学習した語彙や表現を使って発表活動をするという、段階的にインプットからアウトプット活動へとつながるよう構成されている。提示された場面においてどのような英語で伝えればよいのか考え、表現する活動「REVIEW」が年間3回、設定されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「Did you know?」のコーナーで日本と異なる外国の言語や文化についての内容を取り扱うことで、異文化に触れられるような工夫がされている。また、年間3回の活動が設定されている「REVIEW」では、相手の話したことや気持ちを配慮して自分の気持ちや意見を伝える活動が設定されている。各単元に目標が明記されており、見通しをもって活動できるように工夫されている。 </p> <p> <聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫> ○各単元が「聞く→話す(やり取り)→話す(発表)→読む・書く」の流れで構成されており、書く活動において、主に使用・育成する技能・領域がマークで示されている。 ○各所に文字に触れる場面を設定し、段階的に文字を読んだり、書いたりする機会を増やすことで中学校の学習につながるようにしている。文を書くことを通じて、語順や文構造の気付きにつながるよう工夫されている。 ○基本的な語彙は、「Listen and Play」やチャンツなどで示しており、その後の「Listen and say」や「Listen and Do」で繰り返し活用しながら身に付けられるよう工夫されている。単元末の「Activity」では、学んだ表現を使ってやりとりや発表をするためのコミュニケーション活動を行う構成になっている。 ○各単元の「Jingle」や巻末の「Word List」では、QRコードで音声を聞いたり、「Let's Read and Write」でアルファベットの読み書きを学んだりできる動画が設定されている。 </p>	
資 料	<p> ○巻頭にはアルファベットの一覧と「Pre Unit」があり、前学年までに学んだ内容を復習できるような内容となっている。5年生ではローマ字の復習として自分の名前を書き、名刺を作って自己紹介をする活動が設定されている。 ○巻末には、読み物教材としての「Story」、単語リスト、アルファベット表またはローマ字表がある。また、「Can-Do List」があり、到達度を児童が確認できるように工夫されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○英語も日本語もユニバーサルデザイン教科書体を使用されているが、各単元の題字や書く活動の見出しはデザイン文字が使用されている。5 : 6 : 5の縦幅の4線を採用しており、全て実線だが、第3線のみ青線となっている。 ○日本語と英語の文字の大きさに差はない。 </p>	
総 括	<p> ○各単元が扉、Part1~Part3、振り返りで構成されている。扉では「Goal」が示され、Part1, 2でインプットした表現をPart3でアウトプットし、最後に振り返りを行う構成になっている。「Part」ごとに書く活動があり、学期末の「Review」では、その単元で学習した表現の復習と活用ができるようになっている。短時間で行える繰り返し学習に適している題材には「モジュールマーク」を付け、短時間学習で扱えることが示されている。 </p>	

外国語科（英語） 調査資料 2

○分量について

内容	学年	東書	開隆堂	学図	三省堂	教出	光村	啓林館
1 総ページ数	5年	106	142	162	142	146	161	138
※ 目録に記載されたページ数	6年	106	150	158	138	146	163	138

○領域別教材数等（言語活動）について

※2は3の教材数を合わせた総教材数

内容	学年	東書	開隆堂	学図	三省堂	教出	光村	啓林館	
1 単元数 (Lesson, Program, Unit等)	5年	8	9	10	7	9	9	8	
	6年	8	11	10	7	9	9	8	
2 総教材数	5年	213	113	159	101	98	134	159	
	6年	255	126	159	93	100	144	180	
3 領域別 教材 数	① 主に聞くこと	5年	68	52	59	43	45	64	107
		6年	73	54	56	36	39	69	105
	② 主に読むこと	5年	32	5	26	8	4	17	14
		6年	33	11	32	9	10	16	20
	③ 主に話すこと [やり取り]	5年	84	21	30	35	21	17	11
		6年	66	26	27	33	17	11	9
	④ 主に話すこと [発表]	5年	7	11	11	6	8	10	17
		6年	11	16	10	6	7	16	16
	⑤ 主に書くこと	5年	22	24	33	9	20	26	10
		6年	72	19	34	9	27	32	30

○題材について

内容	学年	東書	開隆堂	学図	三省堂	教出	光村	啓林館
1 日本人の日常生活や風俗習慣に関する題材数	5年	8	11	10	8	9	9	8
	6年	6	6	9	5	6	7	7
2 日本の伝統文化に関する題材数	5年	3	3	2	1	2	1	1
	6年	1	2	2	2	2	1	1
3 外国の文化に関する題材数 (世界の人々の日常生活や風俗習慣)	5年	5	3	6	4	4	8	7
	6年	7	4	4	4	2	7	7
4 日本や外国の物語に関する題材数	5年	0	0	0	3	0	1	0
	6年	1	1	0	3	1	2	1
5 世界や日本の地理、歴史、自然に関する題材数	5年	2	4	3	4	3	1	1
	6年	4	3	3	1	2	3	3

○その他

内容	東書	開隆堂	学図	三省堂	教出	光村	啓林館
1 アルファベットに関する活動数	203	173	227	38	130	155	74
2 動画や音声のデジタル教材数	96	67	54	150	18	109	85
3 巻末付録シート数	8	16	0	10	23	20	16
4 巻末ワードリスト単語数	575	665	518	517	775	721	550
5 最長読み物教材総単語数	50	42	45	23	120	57	102
6 国語科との連携に関する活動数 (ことばへの気づき)	18	8	6	6	20	32	12